

# 都市計画道路青木線整備事業

～住みよさ日本一を実感できる都市へ～

くだまつ  
下松市 建設部

## 1. 下松市の概要

下松市は、山口県東部の瀬戸内海に面し、古来より天然の良港を中心に栄え、星が降ったという伝説が生きる豊かな自然に包まれた人口5万7千人、面積89.36km<sup>2</sup>のまちです。

昭和初期から高度成長期にかけて臨海工業都市として成長してきた背景を有し、近年では、商業や物流の拠点地域としての賑わいを見せ、県下で最も面積の小さい市ですが、都市基盤や商業施設が充実したコンパクトにまとまったまちとなっています。



## 2. 都市計画道路青木線

都市計画道路青木線は、下松市の市街地を東西方向に貫く幹線道路で、国道188号を補完する重要な幹線道路となっています。今回の整備箇所は、南北に走る県道下松鹿野線から県道下松新南陽線を結ぶ483mの区間となります。

### 《道路概要》

延長：L=483 m W=16 m

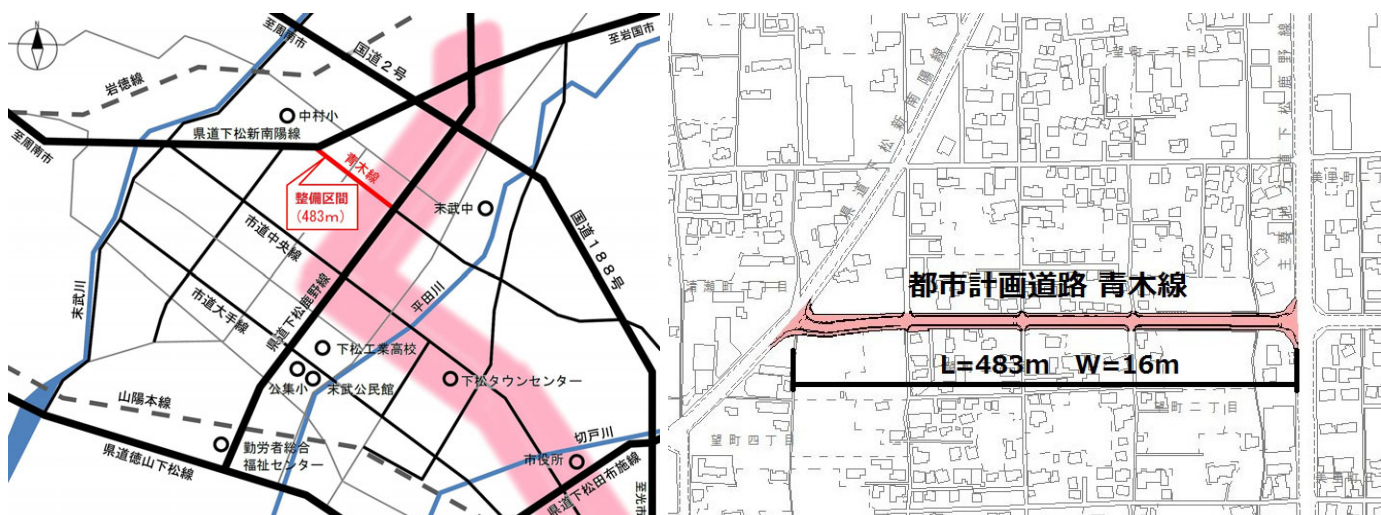
車線数：2車線

道路規模：第4種第3級

設計速度：40km/h

事業期間：平成19年10月～平成27年12月

総事業費：約11億4千万円



## 3つの効果に期待

### ① 県道、市道の渋滞緩和

下松市は、県道下松鹿野線から市道中央線を通りJR下松駅までの沿線に商業施設が多く立地し、L字型の中心市街地を形成しています。

特に、県道下松鹿野線沿いへの大型小売店の出店が相次いでおり、今回の整備で格子状の道路ネットワークが形成できたことで、交通量の分散による県道、市道の渋滞の緩和が図られることを期待しています。



### ② 周辺の居住環境の改善と市街化の誘導

整備区間の周辺地域は、公共下水道の整備が遅れている地域でしたが、道路整備に合わせて下水道幹線管渠を埋設し、居住環境の改善に取り組みました。

また、この地域には耕作放棄地等の低・未利用地も点在していましたが、沿線を中心に店舗等も出店し、市街地としての面的な発展を望んでいます。



### ③ 都市防災機能の向上

青木線は、災害時の安全に通行できる避難路、火災時の延焼遮断帯としての機能を担い、また、合わせて行った雨水管渠の整備により豪雨時の冠水被害も軽減し、都市防災機能の強化に繋がっています。





### 3. おわりに

青木線を整備し4年が経過しましたが、整備後には、マンション建設や店舗出店、宅地開発が進み、良好な市街地が形成されてきています。「道を一本通せば『まち』が変わる」という言葉を再認識することができた道路整備でした。

また、周辺で進めてきました土地区画整理事業の整備効果もあり、市制施行80周年を迎えた昨年には、人口が過去最多を更新し、現在も更新を続け、民間の「住みよさランキング」では全国22位という高い評価をいただいています。

今後も、市民が住みよさを実感できるまちづくりを進めてまいります。

